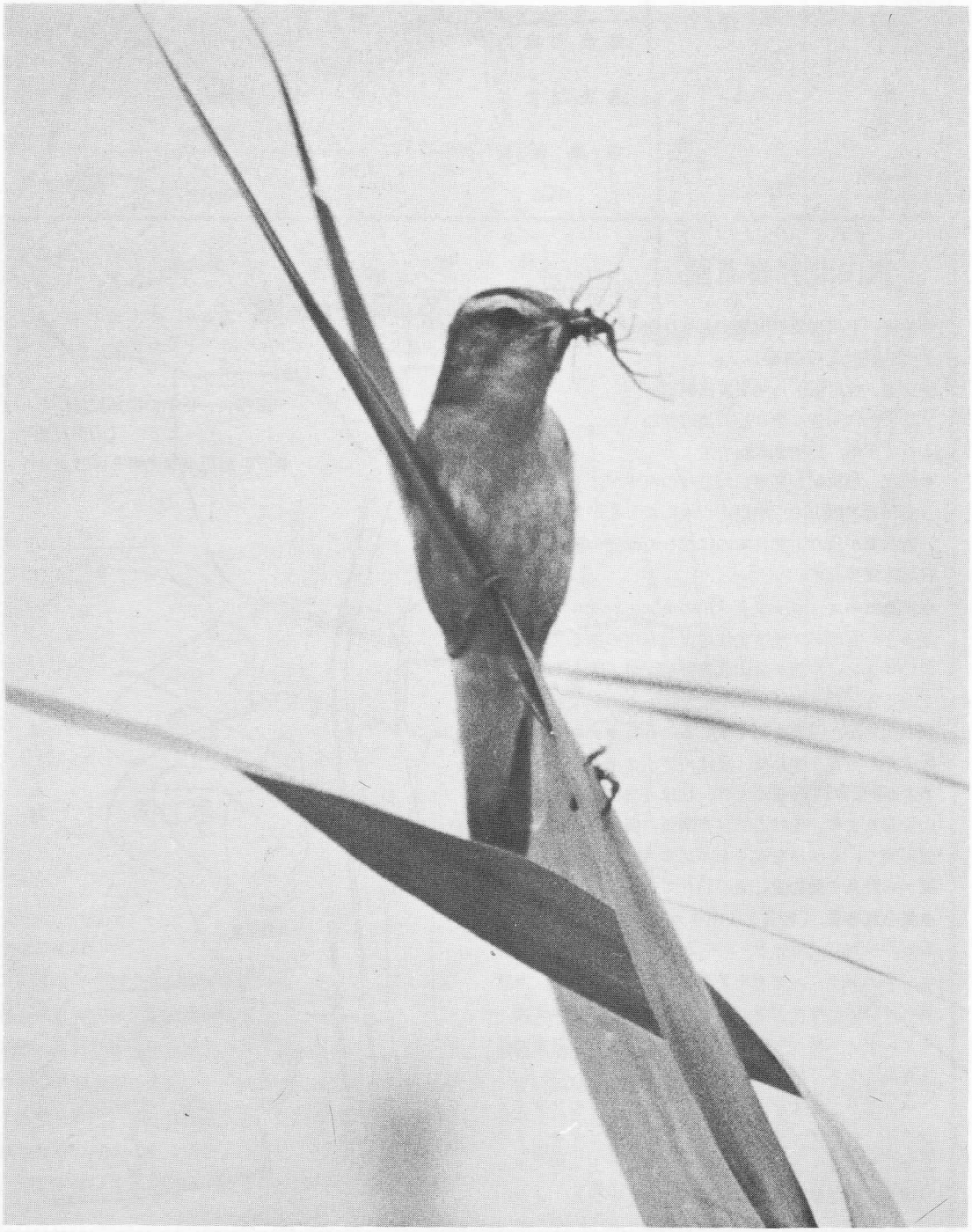
野鳥だより

—北海道—

第４０号
編集・発行　北海道野鳥愛護会
発行年月日　昭和55年８月１日



コヨシキリ　札幌市白石区北郷　52年７月16日　撮影　小堀煌治

もくじ

探鳥地案内（嵐山北邦野草園）……2
野幌森林公園の鳥……柳沢信雄……3
シベリアオオハシシギ……羽田恭子……8
探鳥会報告……ウトナイ・野幌・野幌・植苗・ウトナイ……9
昭和55年度総会経過報告……11
探鳥会案内……12
鳥民だより……バードウィーク写真展、会費納入……12
編集後記……12

探鳥地案内 ⑩

嵐山北邦野草園

◆**位置**　上川郡鷹栖町嵐山自然休養林（旭川駅北西6㎞）

◆**交通**　旭川駅から旭川電気軌道バス③または④番に乗り、終点近文25丁目で下車、徒歩0.8㎞です。

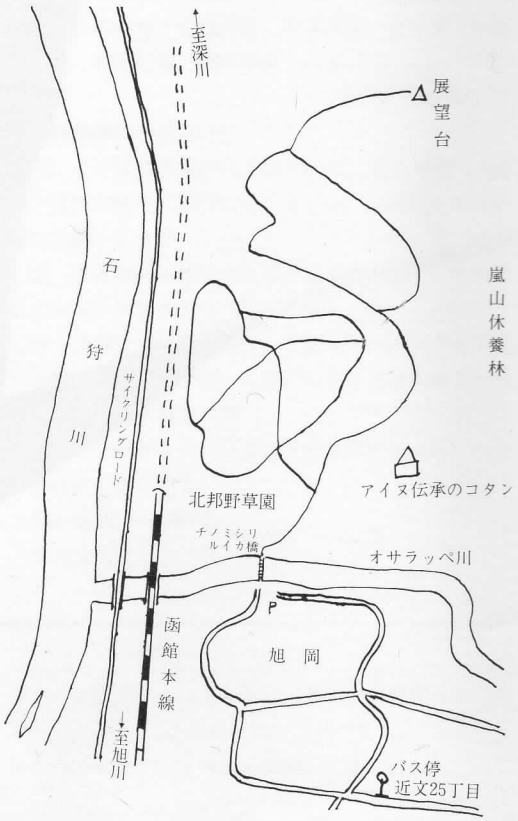
◆**概況**　旭川駅を発車した上りの汽車が、トンネルに入る付近が嵐山で、旭川市街地に接しながら樹齢の高い広葉樹が残り、北日本には珍しく植物の種類が多い自然休養林です。

◆**探鳥コース**　オサラッペ川のチノミシリルイカ橋を渡ると、右側がアイヌ先住民復元家屋のあるアイヌ伝承のコタン。左側が嵐山北邦野草園で、園内の遊歩道を辿ると、シラネアオイやヤマシャクナゲなど870種類の植物が、四季を彩っている。春はキタコブシやホオノキが芳香を漂わせ、夏はエゾイタヤ、ハルニレの老木が憩いの木陰をつくり、秋はカツラやキハダが全山を彩ります。冬は吉田友吉園長の餌づけによる動物愛が実り、ラッパを吹くとエゾリスや野鳥が集り、全国から野鳥や動物愛好者が訪れている。

◆**見られる鳥**〔留鳥〕ミヤマカケス　ハシブトガラ　シロハラゴジュウカラ　シジュウカラ　エゾヒヨドリ　エゾアカゲラ　エゾオオアカゲラ　エゾコゲラ　コアカゲラ(稀)　ヤマゲラ　クマゲラ(稀)　シマエナガウソ　シメ　キバシリ　ハイタカ　トビ　ミソサザイ〔夏鳥〕モズ　ハクセキレイ　キセキレイ　ムクドリ　コムクドリ　アオジ　クロジ　ウグイス　センダイムシクイ　コサメビタキ　ルリビタキ　キビタキ　オオルリ　コルリ　カッコウ　ツツドリ　アカハラ　クロツグミ　マミジロ(稀)　コノハズク　イカル　キジバト　アオバト　オシドリ　〔冬鳥〕ツグミ　ハチジョウツグミ　キレンジャク　アトリ　オオマシコ　ミヤマホオジロ　オジロワシ　オオワシ(稀)

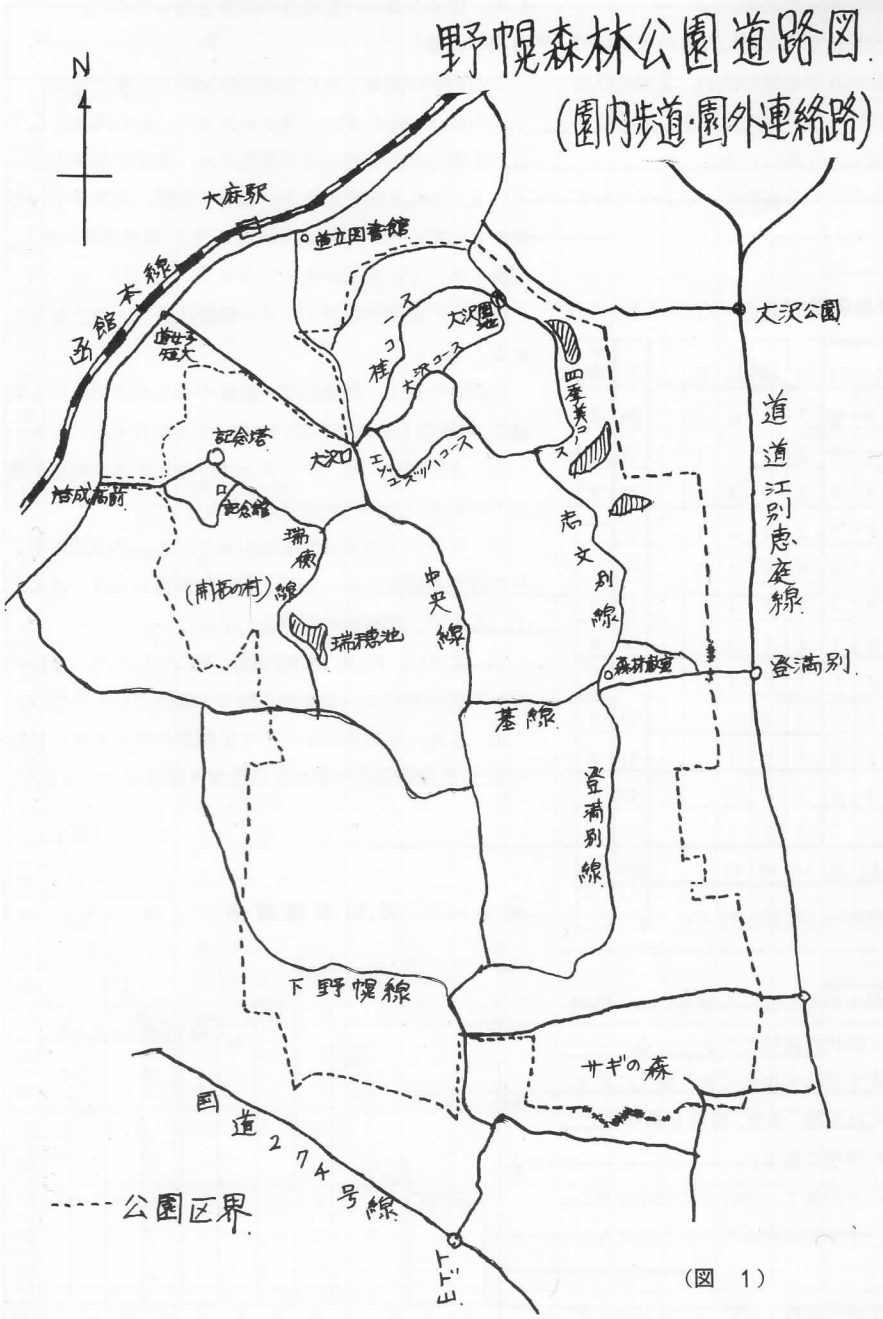
～昭和44～45年の探鳥記録から～

（山田良造）
〒070 旭川市春光町2区3条



野幌森林公園の鳥

柳沢信雄



(図 1)

◉はじめに

昭和45年5月、北海道野鳥愛護会が発足し、第1回探鳥会が野幌森林公園で実施された。

この時はじめて野鳥観察の手ほどきをうけた。以来10年間、北海道野鳥愛護会、百武教室、私設野幌探鳥会や1人で歩いた回数を合計すると、野幌森林公園での野鳥観察は370回をこえる回数となった。

回数が多いと言うだけで、十分な観察や記録がとれているわけでないが、10年を区切りとして、この間の記録を整理したので報告する。

期　間

昭和45年5月10日から昭和55年5月11日まで。(表1)

観察地域及び記録の方法

野幌森林公園が観察地域のほとんどであるが、公園に至るまでの道路ぞいもふくめている。(図1)

公園内には歩道が幾本もあり、季節や体調等を考慮してコースを選択するため、一定していないが、回数の多いコースは、大麻駅前―大沢入口―エゾユズリハ―四季

美―桂―大沢入口―大麻駅前、である。

記録は土、日曜日、祝日に観察記録したものの集積であるが、この中には、私自身の記録のほか、北海道野鳥愛護会、百武教室、私設野幌探鳥会の記録や、信頼のおける身近な観察者の記録もふくめている。

なお、記録として残されているものも、しらべられる範囲でとりあげた。

月別・年別探鳥回数（45.5～55.5）（表1）

年／月	S 45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55		計	平均
1		0	2	10	4	6	2	3	1	6	2		36	4
2		0	2	4	4	4	5	2	1	2	1		25	3
3		0	2	2	5	3	3	3	0	3	1		22	2
4		0	4	5	3	4	2	2	3	3	1		27	3
5	1	4	4	5	4	5	3	6	4	4	4		44	4
6	1	1	4	0	3	6	3	6	3	4			31	3
7	0	1	4	5	2	4	4	4	1	3			28	3
8	0	1	6	5	4	4	1	1	0	4			26	3
9	1	1	4	5	1	2	2	3	2	2			23	2
10	1	2	5	5	7	4	4	4	5	4			41	4
11	1	6	6	5	4	4	4	3	6	3			42	4
12	1	3	3	3	4	3	3	3	3	3			29	3
計	6	19	46	54	45	49	36	40	29	41	9		374	37
累計	6	25	71	125	170	219	255	295	324	365	374			

地域の環境

石狩平野の南部、札幌市の中心部から東方15km、周囲を農耕地にかこまれた丘陵状の森林でできている。

温帯と亜寒帯の植物がまじって生えており植生に恵まれている。さらに林内には溜池、水流、湿地もあるので、鳥類の生息には恵まれた環境である。

標高は海抜30mから80m程度で、中ほどにやや小高い丘が南北方向にはしり、全体的にゆるやかな台地になっている。

近年、周辺の一部が宅地化されてきたり、さらに、平日は学校の遠足、休日は団体や一般行楽の利用者が急増して、騒音が高く、探鳥行の障害となってきた。

鳥相の概要

この期間に記録された鳥は15目34科137種である。

この数はかなり多いと考えられるが、その理由としては、(1)周辺が広範囲に亘り開発され、貴重な緑地となっている。(2)自然環境がよく、森林、原野、池等多くの要素をもっている。(3)観察者が多く、また観察期間が長く、回数も多いことなどが考えられる。

種名と出現期間は表3、月別種数は表2、のとおりである。

公園内の鳥は、札幌近郊の森林中で生息するものと同様で、特殊なものはないが、気づいた点を若干あげると、

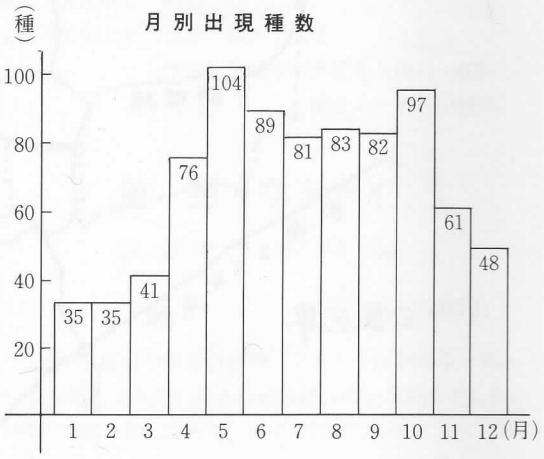
(1) 古い記録には、ホシガラス、キンメフクロウが残っているが、この10年は姿をみない。

(2) アオサギの集団繁殖地があり、かっては遊歩道よりの観察が容易であったが、現在は歩道から遠くはずれているので、繁殖地の観察はしていない。

(3) 藻岩山、円山、真駒内桜山等にくらべて、春秋の渡り初認が平均3～5日おくれる。理由はわからない。

(4) 夏鳥、冬鳥共に年により出現数の差が大きく目立つが、これは公園内の変化とはあまり関係がないと思う。

（表2）



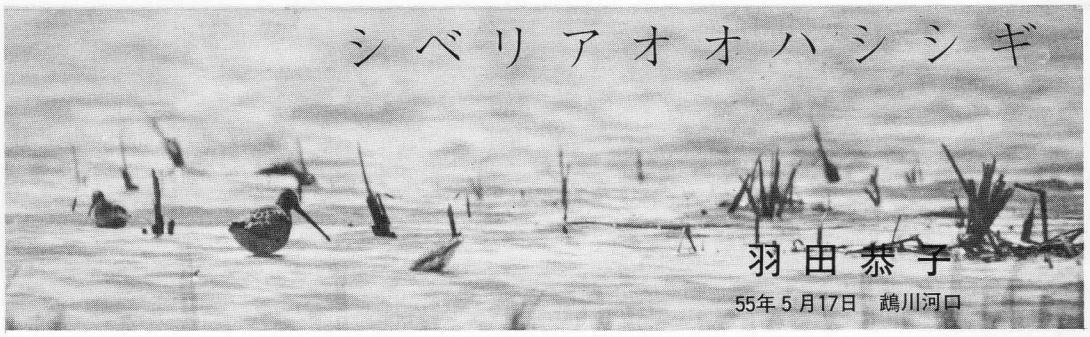
野幌森林公園の鳥類リスト及び出現期間　（表3）

	科名(目)	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
1	(カイツブリ目) カイツブリ科	カイツブリ													
2	(コウノトリ目) サギ科	アオサギ													

	科名(目)	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
3	(ガンカモ目)	オオハクチョウ										○			通過
4	ガンカモ科	オシドリ													
5		マガモ													
6		カルガモ													
7		コガモ													
8		ヨシガモ													
9		ヒドリガモ													
10		オナガガモ													
11		シマアジ													
12		ホシハジロ													
13		キンクロハジロ													
14		スズガモ													
15	(ワシタカ目)	ミサゴ													
16	ワシタカ科	ハチクマ										○			通過
17		トビ													
18		オジロワシ													
19		オオワシ													
20		オオタカ													
21		ツミ													
22		ハイタカ													
23		ケアシノスリ										○			通過
24		ノスリ													
25		クマタカ													
26	ハヤブサ科	ハヤブサ													
27		チゴハヤブサ													
28		チョウゲンボウ													
29	(キジ目) ライチョウ科	エゾライチョウ													
30	キジ科	ウズラ													
31		キジ													
32	(ツル目)	クイナ													
33	クイナ科	バン													
34	(チドリ目)	イソシギ													
35	シギ科	ヤマシギ													
36		オオジシギ													
37	(ハト目)	キジバト													少数越冬
38	ハト科	アオバト													
39	(ホトトギス目)	ジュウイチ													
40	ホトトギス科	カッコウ													
41		ツツドリ													
42	(フタロウ目)	コノハズク													
43	フクロウ科	オオコノハズク													
44		キンメフクロウ											○		S 9.11.10 井上氏
45		アオバズク													
46		フクロウ													
47	(ヨタカ目) ヨタカ科	ヨタカ													

	科名(目)	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
48	(アマツバメ目)	ハリオアマツバメ													
49	アマツバメ科	アマツバメ													
50	(ブッポウソウ目)	アカショウビン													
51	カワセミ科	カワセミ													
52	(キツツキ目)	アリスイ													
53	キツツキ科	ヤマゲラ													
54		クマゲラ													
55		アカゲラ													
56		オオアカゲラ													
57		コゲラ													
58	(スズメ目) ヒバリ科	ヒバリ													
59		ショウドウツバメ													
60		ツバメ													
61		イワツバメ													
62		キセキレイ													
63		ハクセキレイ													
64		セグロセキレイ													
65		ビンズイ													
66	サンショウクイ科	サンショウクイ										○			S
67	ヒヨドリ科	ヒヨドリ													
68		モズ													少数越冬
69		アカモズ													
70	レンジャク科	キレンジャク													
71		ヒレンジャク													
72	ミソサザイ科	ミソサザイ													
73	イワヒバリ科	カヤクグリ													
74	ヒタキ科	コマドリ													
75	ツグミ亜科	ノゴマ													
76		コルリ													
77		ルリビタキ													
78		ノビタキ													
79		マミジロ													
80		トラツグミ													
81		クロツグミ													
82		アカハラ													
83		シロハラ													
84		マミチャジナイ													
85		ツグミ													
86	ウグイス亜科	ヤブサメ													
87		ウグイス													
88		エゾセンニュウ													
89		コヨシキリ													
90		オオヨシキリ													
91		メボソムシクイ													
92		エゾムシクイ													

	科名(目)	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
93		センダイムシクイ													
94		キクイタダキ													
95	ヒタキ亜科	キビタキ													
96		ムギマキ													
97		オオルリ													
98		サメビタキ													
99		エゾビタキ													
100		コサメビタキ													
101	エナガ科	エナガ													
102	シジュウカラ科	ハシブトガラ													
103		ヒガラ													
104		ヤマガラ													
105		シジュウカラ													
106	ゴシュウカラ科	ゴジュウカラ													
107	キバシリ科	キバシリ													
108	メジロ科	メジロ													
109	ホオジロ科	ホオジロ													
110		ホオアカ													
111		カシラダカ													
112		シマアオジ													
113		アオジ													
114		クロジ													
115		オオジュリン													
116	アトリ科	アトリ													
117		カワラヒワ													
118		マヒワ													
119		ベニヒワ													
120		ハギマシコ													
121		オオマシコ													
122		ギンザンマシコ													
123		イスカ													
124		ナキイスカ										○			S.46.10.5
125		ベニマシコ													
126		ウソ													
127		イカル													
128		シメ													
129	ハタオリドリ科	ニュウナイスズメ													
130		スズメ													
131		コムクドリ													
132		ムクドリ													越冬するものある
133		カケス													
134		ホシガラス									○				S 10.9.11
135		コクマルガラス													
136		ハシボソガラス													
137		ハシブトガラス													



シベリアオオハシシギ

羽田恭子

55年5月17日　鵡川河口

55年5月17日、萩　千賀さんと北尾　諭さんの三人で、鵡川にシギやチドリを見に行きました。

この日は、ほどほどの曇り日で、こんな日はきっと、よいものが見られるに違いないと、身勝手に決めこんで牧場に着くと、早速頭上でオオジシギが、ズビヤクズビヤクと迎えてくれました。

少し進むと牧場の中から上半身を現している、7羽のチュウシャクシギがいました。幸先よし。ホウロクシギやダイシャクシギほどでないにしても、あの嘴の曲がり具合は、いつみても不思議に思えます。ピピピピ……という声も、潮風の中に尾を引いて、捨て難い味があります。

派手に尾を振るイソシギや、素早く走りまわるコチドリ、おっとり構えたダイゼンの、見事な夏羽、地味な冬羽、まだらの中間羽のさまざまな衣装を見比べながら、河口の方へ進むと、100羽ばかりのハマシギの集団が、スピードをあげてやってきます。みると後ろからぐんぐん迫ってくるのは、チゴハヤブサです。心の中で、「速く逃げて、速く速く」と、つい、小さいハマシギの味方をして、捕まらないことを願っています。チゴハヤブサだって、まだ今日の食事にありついてないのでしょうに…あわやというところで、ハマシギは身を翻し、捕えそこねたチゴハヤブサは、近くの木に止りました。おかげでじっくりチゴハヤブサを観察する機会に恵まれました。

潮風の中に漂う、ピピピピ……ピピピピ……という声に振り返ると、草むらから飛び出すチュウシャクシギを、23羽数えました。

河口に着くと、嘴の長いのが2、3羽見えます。中の一羽をみた途端、「あ、あれだ。」「あれであってほしい。」「いや、きっとあれに違いない。」と、思いました。

〝あれ〟と感じたのは、一週間程前、仙台の鳥友からの来信に、〝5月5日、蒲生でシベリアオオハシシギを2羽みました。1羽は美しい夏羽でした〟とあり、その個体でないかと思ったからです。

今、目の前にいる長い長い嘴の美しい夏羽のシギは、まさに、シベリアオオハシシギだと直観しましたが、心のどこかで、まだ見ていない種であることを願ったり、珍鳥発見にしたがる気分を戒めながら、まずは図鑑をみてと、三人で首っ引き。間違いなくシベリアオオハシシギです。種が確認されると、それからは、目が痛くて、涙がでるほどプロミナを覗き込み、萩さんは写真を撮るのに大忙しです。彼女は、そこはそれ、長年の腕と、千ミリの威力でバッチリ。篠山紀信も顔負けの激写です。

シベリアオオハシシギは、長い嘴を干潟に垂直につっこみ、盛んに採餌をしています。嘴の付け根が太いためか頭が小さく見えます。傍にいたオオソリハシシギや、ツルシギと比較することもでき、また何度か飛び立っては元の処へ戻ったので、飛翔時の尾を超える長い脚や、翼上面の模様も観察することができました。

蒲生に現われたものと、同一の個体かどうかは、知る由もありませんが、52年、兵庫県浜甲子園に現われたとき、大阪の鳥友からの報を羨やましくきいた、その種が今、目の前にいるのです。この美しいシギを、この場に残して立ち去り難く、一汽車遅らせて、じっくり観察しました。

帰路の車窓からは、暮れなずむ空にくっきりと浮ぶ樽前、恵庭のスカイラインを、殊の外、美しいと眺めながら、三人で同じ観察談を繰り返しました。

ここちよい疲れと興奮が、いつまでも心に余韻を残した一日でした。

この日観察したシギ、チドリは、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、ハマシギ、オバシギ、シベリアオオハシシギ、ツルシギ、キアシシギ、イソシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、オオジシギの17種でした。

私共がみた次の日、鵡川に行った鳥友は、残念ながらみられなかったそうです。あの日限りの滞在だったのでしょうか。

なお、シベリアオオハシシギは、昭和47年5月、青森県小川原湖で本邦初記録があり、その後、52年5月、東京大井、同年同月、兵庫県浜甲子園、前記蒲生、また道東の春国岱でも53年8月記録されていますが、稀な種類だと思います。（これ以外にも記録があるのかもしれませんが、現在私が知っているものだけあげました。）

〒064 札幌市中央区円山西町3－3－26

ウトナイ

55，3，30　10：00〜12：30

（はじめての探鳥会参加）

水崎　満

この会の催しを新聞で知り、初めて参加しました。

ヒバリのさえずりが、にぎやかな朝でした。

岸辺に立つと悠々と漂う白鳥の群れと、まっ黒に見えるカモの群れに、まず目をみりました。

首を伸ばし、向き合って鋭い声をたてながら羽ばたいているオオハクチョウの、水面をとびたつ羽音の強さにおどろきました。首を前方に思いっきり伸ばしてとぶカモの姿にも、ただみとれるばかりでした。

「ピュー ピュー というかすかな声が聞こえるでしょう。ヒドリガモが近くにいるはずです」と、いち早く探しあて教えてくれた案内の人のするどい耳と、鳥に寄せる熱い心にただ感心して、その鳥を目で追っていました。

ピンと伸びた長い尾を上に向け、頭を水中につっこむオナガガモのしぐさは、実にかわいいものでした。首と胸元の白さ、黒と白の羽色のとり合わせがみごとでした。

ダイダイ色の足、大柄でひときわめだってみえたのはヒシクイであることも知りました。初めてのぞくプロミナーに映る世界は、私にとってのはじめての、神秘の世界でした。

暗緑色の顔にくっきりみえるまんまるい斑がかわいらしいホオジロガモは、水面に姿を現わすのが、待ち遠しく感じてなりませんでした。

色さまざまの羽の色、キラキラ輝く羽のつや、かわいらしいしぐさ……生きた水鳥たちが示してくれるひとつひとつがめずらしく、じっと見入るばかりでした。

自然の中で、あるがままの水鳥たちの姿にふれて、探鳥のおどろき、よろこび……などをしみじみと味わったありがたい半日でした。

〔記録された鳥〕ミミカイツブリ　アオサギ　ヒシクイ（コブハクチョウ）オオハクチョウ　コハクチョウ　マガモ　カルガモ　コガモ　ヨシガモ　ヒドリガモ　オナガガモ　ハシビロガモ　キンクロハジロ　スズガモ　ホオジロガモ　ミコアイサ　ウミアイサ　カワアイサ　トビ　オジロワシ　オオワシ　ノスリ　ハイイロチュウヒ　ツルシギ　セグロカモメ　ヒバリ　ハクセキレイ　ツグミ　オオジュリン　ベニマシコ　スズメ　ムクドリ　ハシブトガラス　34種（解散後150羽ばかりのマガンがみられました。）

野幌探鳥会

〔参加者〕鷲田善幸　寺田達雄　井上克之　佐藤栄邦・由香　秩山寿子・恭子・英範　森松章子　大本輝誉・尚子・学　中島元己　水崎満・理　高橋俊博　榊原茂樹　清野久子　渋谷美津子　野村梧郎　早瀬広司・富　宮崎政寛　音野一郎　野口正男　羽田恭子　梅木賢俊　萩千賀　飯山五玖子　長谷川涼子　野々村菊　米山露子32名

〔担当幹事〕梅木賢俊　羽田恭子

〒001 札幌市北区北32条西9丁目

野幌

55，4，27　8：40〜13：40

田辺　至

感激と興奮の1日でした。かねてより双眼鏡を手に入れて、一度でよいから探鳥会に参加したいと願っておりました。4月27日、野幌森林公園での探鳥会に参加した約50名の一員となれた事を嬉しく思いました。

折りしも絶好の日よりに恵まれまして、レンズの中におどる小鳥の姿態！　その美しさと活動力に心をうばわれました。日頃、何気なく見過す野鳥もこうして関心をもって改めて見直すと、彼らも精一杯生きているのだなあと自然のすばらしさに心を打たれました。それにもまして野鳥に関心をもつ人々のまじわり、幹事さんの野鳥についての深い造詣に大変感心しました。特に、配布されましたパンフレットにのっていた野鳥の図には舌をまきました。実によく描けています。言葉できくより一段と理解が深まりました。これで私の野鳥についての関心は決定的となりました。一生の趣味として野鳥の観察を続けることでしょう。今回見た中で気に入りましたのは、シジュウカラの美しさと優雅さ、アオジの声の美しさ、カケスの美しさとまねの面白さでした。又、森林公園の中を廻りましたのも始めてで楽しいものでした。次回も参加したいと考えています。

野鳥愛護会の皆様の配慮に対し、心から感謝申し上げます。

〔記録された鳥〕カイツブリ　カモ（オシドリ？）トビ　ハイタカ　ヤマシギ　キジバト　ヤマゲラ　アカゲラ

コゲラ　ヒバリ　ハクセキレイ　ヒヨドリ　モズ　クロツグミ　アカハラ　ツグミ　ヤブサメ　センダイムシクイ　キクイタダキ　エナガ　ハシブトガラ　ヒガラ　ヤマガラ　シジュウカラ　ゴジュウカラ　メジロ　ホオジロ　アオジ　カワラヒワ　ウソ　シメ　ニュウナイスズメ　スズメ　ムクドリ　カケス　ハシボソガラス　ハシブトガラス　37種　シマリス

〔参加者〕下山イク　柳沢信雄・千代子　梅木賢俊　村野紀雄・森・原・千草　野口正男　平野明　黒田聖子　佐藤雅夫　伊井温彦・義人　江尻元・弘子・奈緒美　羽田恭子　田辺至　早瀬広司・富　中島元己　足立英治　鶴崎展巨　鬼頭研二・幹子・大志　中野進　野々村菊　米山露子　近藤修三　早坂和裕　小野克己　中田誠　西山利彦　吉本和子・光金　長谷川涼子　萩千賀　西村ふみえ　九島真佐治　谷口一芳・登志　叶野駒夫　新宮康生　北尾諭　井上克之　寺田達雄　佐藤栄邦・由香　宮田聡子　谷美代子　高橋俊博　榊原茂樹　54名

〔担当幹事〕柳沢信雄　野口正男

〒072 美唄市西1条南5丁目

野　　幌

55, 5, 11　9：10〜13：40

千葉敏裕

夜遅い職業上、日の出を見る機会が少ないのですが、昇る朝日が好きで山や海へ行きます。そんな時にBGMのように静かに耳に入ってくるのが、幾つかの野鳥のさえずりでした。以来野鳥にも興味を持つようになり、円山、藤の沢等を歩くようになりましたが、声聞えても姿見えず、姿探せば逆光で、種類も分らず、開き直って種類などどうでもいい、美しいさえずりが聞けるならと思っていましたが、今回新聞で探鳥会のことを知り、参加させていただきました。

指導員の適切で解かり易い説明、愛護会発行の細かな特徴の書かれているテキスト、似通った鳥の多い中、見分け方等を親切に教えて頂き、お蔭で40数種いた鳥の中で15種くらいは、確実に覚えたつもりです。

求愛の詩でしょうか、高い梢の頂点でひときわ美しくさえずっていたのはクロツグミ。妻の為、やがて産まれる子の為に、黙々とマイホーム作りに精を出すヤマゲラ。数分のうちに頭の入るほどの穴を開けたその力強い仕事ぶりに、独身の私は、これくらい、一生懸命働かねば、嫁のきてはないぞと、ヤマゲラに喝を入れられたような気がしました。

日頃歩く事が少なく、足が疲れましたが、今日出合った為の姿を想い出して飲む、風呂上りのビールは、格別の味でした。看は、焼鳥ではなかったことを付け加えておきます。良い1日を過ごせたことに感謝致します。

頭と心のクリーニングに自然と親しみ、自然の中から何かを学ぶ。小さな草花、空、鳥、そして自然を守ることによって人間も生きてゆける。野鳥愛護の気持ちを、今日覚えた野鳥の声と姿同様忘れないようにします。有難うございました。

〔記録された鳥〕アオサギ　トビ　オオジンギ　キジバト　ツツドリ　ヤマゲラ　クマゲラ　アカゲラ　コゲラ　ヒバリ　ハクセキレイ　ヒヨドリ　モズ　ルリビタキ　クロツグミ　アカハラ　ツグミ　ヤブサメ　ウグイス　センダイムシクイ　オオルリ　エナガ　ハシブトガラ　ヒガラ　ヤマガラ　シジュウカラ　ゴジュウカラ　メジロ　ホオアカ　アオジ　カワラヒワ　マヒワ　ベニマシコ　ウソ　イカル　シメ　ニュウナイスズメ　スズメ　ムクドリ　カケス　ハンボソガラス　ハシブトガラス　42種　エゾリス

〔参加者〕井上元則　苣野寿衛吉　新妻博　武田勝利　曾根モト　三河登久　青柳卓也　三木昇・道子　柳沢信雄・千代子　叶野駒夫　井上裕靖　早瀬広司　宮本勝美　新宮康生　羽田恭子　長谷川涼子　北尾諭　沢田マヤ子　関口秀樹　野々村菊　古谷幸子　福田三和子　宇野洋子　浜田虎夫　千葉敏裕　金田安弘　寺田達雄　宮田栄　水崎満　田辺至　金沢保三　岩泉恭子・ゆう子　黒田清・千恵子　江中真弓　山岡直樹　古谷敬三・千珂子　日野裕介　前田倭文子　大本輝誉・学　国本昌秀　吉本衛・純子　宮田聡子　49名

〔担当幹事〕柳沢信雄・柳沢千代子

〒060 札幌市中央区北7西21—205
第2コーポ　十勝川

植　苗・ウトナイ

55, 6, 8　9：00〜13：00

福田三和子

今回で3度目の探鳥会参加、ウトナイは新聞等で知って、ぜひ行ってみたいとかねがね思っていた場所でした。

憧れの地へ着いてみて、いました！　いました！　オオジシギが、ジュジュジュ、シュワシュワと大きな声で鳴き、私達をむかえてくれました。

「あそこにコヨシキリがいるよ」と言われさっそく双眼鏡を向けると、口を大きく開けてさえずっているのが目に入ってきました。何んと感動的な一瞬だったでしょう。他に双眼鏡を向けると、シマアオジの黄色の胸が、ノビタキが、オオジュリンが双眼鏡のまるい世界にとび込んできます。肉眼だけで見ているのと、双眼鏡を通して見る鳥の世界の違いに、またおどろかされ、見るたびたびに興奮してきました。

草原の鳥を見て、180度向きを変えると、こんどは水鳥の世界が目に入ってきました。優雅に泳いでいるカモたち、アカエリカイツブリが卵をだいてジーッと動かずに時々首を振って見回していました。

今まで気にもとめないで見たり鳴き声を聞いていた鳥たちが、こんなに美しいとは思いませんでした。

回を重ねるごとに鳥に魅せられ、今まで見た鳥たちが、私の目の中にやきついてはなれません。次回の探鳥会が待ち遠しくなってきました。どんどん参加して鳥たちに魅せられたいと思っています。

〔記録された鳥〕アカエリカイツブリ　アオサギ　マガモ　カルガモ　ヨシガモ　トビ　オオジシギ　キジバト　カッコウ　ショウドウツバメ　ハクセキレイ　ビンズイ　ヒヨドリ　モズ　ノビタキ　エゾセンニュウ　シマセンニュウ　マキノセンニュウ　コヨシキリ　センダイムシクイ　キビタキ　ハシブトガラ　シジュウカラ　メジロ　ホオジロ　ホオアカ　シマアオジ　アオジ　オオジュリン　スズメ　ムクドリ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　33種

〔参加者〕鈴木勇　新宮康生　渡辺紀久雄　久保田共子　長谷川涼子　野口正男　高嶋昭英・則子　清田吉晴　叶野駒夫　飯山五玖子　島田明英　鷲田善幸　岩泉ゆう子　早瀬広司・富　宇野洋子　梅木賢俊　鶴崎展巨　萩千賀野々村菊　福田三和子　中島民雄・武雄　伊藤美枝子　宮本勝美　大宮きよえ　山内孝志・喜栄子　松沢節夫・範子・智子　中村佐子　宮中静枝　下山イク　35名

このほか、道新主催の探鳥会のお世話をしていた、柳沢信雄・千代子、北尾諭、羽田恭子が現地で合流しました。

〔担当幹事〕野口正男　梅木賢俊

〒062 札幌市豊平区月寒東3条19丁目1の4

昭和55年度　総会経過報告

と　き　昭和55年4月19日（土）午後2時

ところ　北海道婦人文化会館

総会は柳沢代表幹事の司会で始まり、井上副会長を議長に選出した後、次の事項について審議がなされ、原案通り承認され成立いたしました。

(1)　昭和54年度事業報告、決算報告及び監査報告について

＜事　業＞

1.　探鳥会の開催（54年4月から55年3月まで11回実施）

2.　野鳥だより発行（第36号から第39号まで4回発行）

3.　その他の活動（新年懇親会開催）
（干潟鳥類全国一斉調査2回協力）

＜監　査＞　正確、適当なものと認められました。

＜決算＞　収入の部

区　分	決算額	予算額	摘　　要
繰越金	46,392円	46,392円	
会　費	389,900	400,000	
寄付金	8,500	10,000	1.
参加費	8,000	20,000	野鳥だより4回分の道庁への売上200,000円を含む。（予算には未計上であった）
雑収入	202,071	1,608	
合　計	654,863	478,000	

支出の部

区　分	決算額	予算額	摘　　要
印刷費	406,500円	210,000円	2.野鳥だより4回分の道庁負担分200,000円を含む。（予算には未計上であった）
通信費	124,420	140,000	
会議費	43,580	50,000	
報償費	45,500	44,000	3.事務所借用代他
その他	20,420	34,000	
合　計	640,420	478,000	

差引残額：14,443円

(2)　会則の一部改正について

会則の第5条第2項が次の様に改正されました。

「本会の会費は、年額個人1,500円、団体4,500円とする。」

(3)　昭和55年度事業計画及び予算案について

＜事　業＞

1.　探鳥会の開催（55年4月から55年3月まで12回開催予定）。

2.　野鳥だよりの発行（第40号から第43号まで4回発行予定）。

3.　その他の事業（新年懇談会の開催、干潟鳥類全国一斉調査への協力2回予定、チェックリストによる野鳥分布調査、探鳥会用資料の作成等を予定）。

＜予算＞　収入の部

区　分	予算額	摘　　要
繰越金	14,443円	
会　費	600,000	個人1,500円×370名＝555,000円 団体4,500円×　10件＝　45,000円
寄付金	10,000	
参加費	20,000	200円×100名＝20,000円
売上金	200,000	野鳥だより売却分 50,000円×4回＝200,000円
雑収入	5,557	
合　計	850,000	

支出の部

区　分	予算額	摘　　要
印刷費	470,000円	会　誌：400,000円 資料等：　70,000円
通信費	170,000	会誌送料：132,000円
会議費	73,000	そ の 他：　38,000円
報償費	86,000	総会、役員会、編集会等
その他	51,000	事務所謝礼、指導手当等 消耗品、発送費、予備費等
合　計	850,000	

(4) **役員選出**　前会長犬飼氏東京転出のため会長に井上氏を選出。

会　　長　井上元則
副 会 長　芦野寿衛吉　斎藤春雄　新妻博　土屋文男
監　　事　佐々木勇　谷口一芳
代表幹事　柳沢信雄
会計幹事　○新宮康生　岡田幹夫
探鳥会幹事　○羽田恭子　梅木賢俊　小沢広記　亀尾紋十郎　野口正男　平井さち子　早瀬広司　北尾諭　柳沢千代子
広報幹事　○小堀煌治　村野紀雄　白沢昌彦　三木昇　萩千賀　小川巌　谷一敏昭
総務幹事　○島田明英　野村梧郎　飯山五玖子　金田寿夫　四十万谷吉郎　中田克郎　藤本紀一　柳沢信雄　（○印は担当代表者）

探鳥会あんない

10月までの予定をお知らせします。どうぞご参加下さい。

＜鵡川海岸＞

・とき　昭和55年8月31日（日）9月21日（日）
・集合　国鉄日高本線「鵡川駅」午前9時10分。
札幌発7：40急行えりもが便利です。主としてシギやチドリの観察

＜野幌森林公園＞

・とき　昭和55年10月26日（日）
・集合　国鉄「大麻駅待合室」午前8時30分、渡りの季節です。どんな鳥が現れるでしょうか。

＜野幌森林公園を歩きましょう＞

上記の探鳥会のほか、次のように探鳥散歩を行います。

・とき　昭和55年9月28日・10月12日
・集合　午前8時30分　大麻駅待合室

探鳥会には、観察用具、筆記用具、昼食、雨具等を持参して下さい。いずれも、2時～3時頃には終了します。ひどい暴風雨でないかぎり行います。

探鳥会についてのお問合せは、柳沢851―6364か、羽田611―0063へ。

鳥民便り

＜バードウィーク＞写真展

去る5月12日から24日まで、札幌駅前の三菱信託銀行ロビーを会場として、本会写真展「野鳥とともに」が開催されました。

その内容は、新聞・テレビでも紹介されましたが、モノクロ、カラーをあわせて50点、種類にして49種の野鳥の写真を生息環境別に展示したものです。身近な野鳥を中心に、珍鳥、珍景もあり、会場にはテープの鳥の声が流れ、銀行らしからぬ雰囲気をかもしだしました。

なお、出品者及び展示された鳥の名称は下記のとおりで、展示設営には出品者のほか、三菱信託銀行、マナベ写真商会の大きな協力をいただきました。

次回には事前の周知を充分に行い、もっと多くの方の参加を得て愛鳥の輪をひろげたいと考えています。

出展者　猪口卓　木内栄　小山政弘　坂本忠司　寺屋圭一　長井博　永田洋平　野村梧郎　萩千賀　平井さち子　村野紀雄　柳沢信雄　山本一

（村野、島田記）

＜会計幹事からお願い＞

(1) 今年度は会費が値上げとなり、個人**年額1,500円**、団体年額4,500円となりました。お間違えのない様にお願いします。

(2) 会費納入は必ず郵便振替（小樽18287）でお早目にお願いします。

(3) 会費についてのお問い合せは「ハガキ」で下記へお願いします。〒003 札幌市白石区北郷4条3丁目1番地32　新宮康生　宛

尚、昭和55年3月31日現在（昭和54年度末日）の会員数は次の通りです。

個人会員　382名
団体会員　9名　　合計　391名

〔編〕〔集〕〔後〕〔記〕

いつもながら、いろいろ書きたい事ありですね。その中で、先号の探鳥会案内で紹介しました大雪での探鳥会、札幌と旭川の会員の心楽しい交流の場でした。本道の鳥仲間がもっとふえて、あちこちで探鳥会を開きたいものです。そのためにも会員の拡大と、ちょっとした鳥のお便り、よろしくお願いします。

（三木記）

〔北海道野鳥愛護会〕　年会費　1,500円（会計年度4月より）郵便振替　小樽18287
〒030 札幌市中央区北1条西7丁目　広井ビル5階　北海道自然保護協会　気付 ☎（011）251―5465